慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	増訂新版 歐洲近世外交史 下巻(林毅陸著, 一誠社發行)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1935
Jtitle	史学 Vol.14, No.2 (1935. 8) ,p.171(353)- 172(354)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19350800-0171

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ひ、要するに、クローチェと共に『總ての眞の歴史は現代史である』から『時勢に適應する歴史教育をなすのには時に後ろ向きになりながら、又前向きになつて國民指導の任に當らなければならぬ』(八二頁)とて我國の歴史教育の缺陷を指摘し、トライチュケと共に『現代史を研究するには一般史家としての資格以上に一般に該博なる教養を必要とし、一面に此の歴史家は政治上にも充分の理解を要すると共に、藝術、哲學、科學、經濟の如きものに對しても徹底的な理解を有し緻密な研究を以て史料を參照する根氣を必要とする』(七一頁)ことを教へて、歴史教育家は又歴史の研究家でなければならぬことを力説してゐる。

第四章に於ては『歴史家に對する定石』としての方法論が説かれ、自己の性能に適應する樣に主題を決定することの必要から(九一頁)その研究上の難易等を初學者の手引として親切に記述し、更に史料の蒐集、分類、批判、史實の綜合等を説明し、氏自からその學位論文の作成に苦心せられた實例を詳細に引用し、宛かも臨床講義を聽かされてゐるかの如き趣がある。それから歴史の動因たる諸要素及び表現方法にまで敍及し、第五章では史學の補助科學について有益な記述が見られる。

以上に於て初學者が心得置くべき重要な知識は略ぼ網羅せられてゐるが、最後に民族史觀なる一章が本書の結論をなしてゐる。これは氏がその學位論文の結句として『民族主義こそは永久的で絶對的なものであると思考する』(日土交渉史三七七頁)旨述べられてゐる氏の最も得意とする史觀の展開であつて『日本史は日本民族史であると考へる』(二六七頁)理由を知ることの出來る最も有益な論文である。我等はこの一書に於て、二個の著述を併讀し得ることの幸をもつのである。聊か慾を云へば、校正は今一層嚴密であつてほしかつたが、それも目障りといふだけの程度のものである。一二の例を擧ぐればリトレ(Emile Littre)マイヤース(Myres)が和洋兩語とも氏の前著『史學概論』の誤植をその儘踏襲し(本書三八頁、概論二九頁)、ハンチントンの書名 Civilization and Climate が同樣に前後し(本書三九頁)Hippolyte Taine の名前が間違つて居り(本書四四頁)ロビンソン教授が今もコロンビヤ大學教授であるかの如く思はしめる(本書七三頁)のは、不注意だと言はゞ言へよう。定價二圓。(間崎万里)

増訂新版 歐洲近世外交史 下卷(林毅陸著 一誠社發行)

上卷(本誌第十二卷四號本欄)に次いで出版された中卷は、二月革命に始まり、クリミヤ戰爭とイタリーの統一に於けるナポレオン三世とカヴールの活躍、丁抹問題乃至獨佛戰爭に於けるビスマルクのプロシヤ・ドイツの建設外交、東歐の改造とサン・ステフアノ條約及びベルリン條約の締結に至る經過が説かれてゐる。

この下卷は全く新著とも見るべきものであつて、戰前に於ける均衡外交の樞軸たる三國同盟と露佛同盟の成立過程、伯林公會後の東方問題、エジプト及びモロッコ問題を繞くる列强の離合集散、日露戰爭の餘波として墺國のボ・ヘ二州合併、バグダード鐵道の敷設とイタリーのトリポリ併合等は、所々に補正を加へられた舊著の再錄であるが、その中露佛同盟に關する一章は從來知られな

かつた祕密が大戰後暴露せられたため新資料によつて全く書き改められ、その全貌が際立つて明かにされた上、新に六章百八十一頁が書き加へられ、世界大戰の前奏曲たる兩度のバルカン戰爭に於ける利益分配に絡まる紛糾せる事件が鮮かに解明せられ、世界大戰を說く諸章に於ては、列强の軍擴とサラエヴォの事變から生れた波瀾重疊の外交戰、大戰の破裂からバルカン諸國の向背と日伊米の參戰、ロシヤ兩度の革命と休戰外交、巴里會議とヴェルサイユ平和條約及びその他の諸條約が說かれてゐる。この下卷に於ては六號活字の割註が著しく增加し事件の結末や諸著から引用しての批評が微細の點まで加へられてゐる。又固有名詞和洋對照表の外、卷末には組方はも少し工夫ありたいと思ふが、前回希望して置いた索引を新に附加し、又全卷を通じて上欄に小見出しを附したることは舊著に比し著しく讀者に便利を與へてゐる。

要するに、全卷を通じて史實が程よく按排せられ、一貫して讀むのに何等の凝滯を覺えしめない敍述の方法は、斯學に精通せる林博士にして始めてなし得る處であらう。この名著によつて、昨今八釜しい『非常時』とか『一九三五、六年の危機』とかいふ言葉がどうして起るのか。軍事費の膨脹が非常時を作るのかそれとも非常時なるが故に軍事費を膨脹させて他を省みないのであるか。それ等について的確な判斷を下し得る基礎的知識が與へられる。我等はこゝに本書の恩惠に浴し得ることを欣幸とする。各卷定價三圓五十錢。（間崎万里）

リシェ綜合文化史論　下卷

（シャール・リシェ原著　間崎万里譯）

綜合文化史論の上卷は既に昭和八年に出版され、讀書界に多大なる歡迎をうけたが、今また其の下卷が上梓されて、普ねく歷史學徒の待望に添ふことゝなつた。蓋し斯かる名著の完璧なる邦譯が公にされたことは、我が西洋史學界の慶事として特筆しなければならない。

我等は既に上卷に於て平和主義と個人の尊重と而して科學に對する絕對的信仰とを基調とする著者獨特の史觀に接することが出來た。そこでは太古からフランス大革命直前までの時代が著者の犀利なる史眼によつて解剖され批判され、而かも最もよく綜合されてゐる。上卷に見らるゝ斯の如き特色は、フランス革命より世界大戰までを敍述した下卷に於ても遺憾なく發揮せられ、上下二卷よく首尾一貫した世界史が構成されてゐるのである。

リシェは第十九世紀を以て科學の時代であるとする。從つて氏の科學尊重の精神は下卷に於て最も强く示されてゐる。卽ち著者によれば、人類世界が今日の如き驚くべき力を得たのは、科學とそれを應用せる工業の賜であり、政治を改革し之を統制し而して其の弊害と過誤とを矯正し得るものは科學の敎育のみであり、更に二十世紀の新社會は絕對に科學を信賴する時にのみ必要な進步を遂げ得るものであるとするのである。

既に上卷に於て印刷機の發明が人類史上に新舊兩時代を劃せり